



精神病

karinomaki

私は将来エリートになる？

私は、子供の頃から勉強ができました。ある時、進学塾に入れられ、成績がどんどんアップした私は、思い上がり、自分は他の人間とは違う、恵まれた将来が開かれていると、勘違いしました。

子供なのに、自分をエリートだと思ってしまったのです。

転落

そんな私が転落するのは早かったです。私は、ある中学を受験して、二次まで受かったその中学を、あろうことかくじ引きで落とされてしまったのです。

私は一週間泣き暮らしました。立ち直った理由は、父の一言でした。

「お前そんなに腹がたつんだったら、将来文部大臣になってあの学校つぶせよ。」

父の存在

父は、内科医でした。私は父のその言葉で、決めました。「私はこの偉大な父を越えるような医師になろう。父より上の大学に入って、父に認めてもらおう。」私は父を尊敬していました。父にほめられることだけが全てでした。

躁鬱病

しかし、父は大きな秘密がありました。医師でありながら、躁鬱病という、心に定期的に大きな波が来る精神病だったのです。遺伝なのかなんなのか、それは私にも影響し、私は20才で、統合失調症という、幻覚、幻聴のある精神病にかかり、大学を中退しました。

大学中退

私の行った大学は、医学部ではありませんでした。最初は理系を選択して、ギリギリまでしがみついていたのですが、センターテストの出来があまりに悪かったので、文系の科目だけで入学を許可してくれる大学に出願し、二次を受けることなく、ひっかかった一校に、簡単に入学してしまいました。

大学の授業は、それはつまらないものでした。私は発病していたこともあり、すぐにいやになってやめてしまいました。

何浪してでも医学部がいい！！

私は受験前に言っていました。「パパ、何浪してでも医学部がいい！！」
でも、私は医師になることを簡単にあきらめました。

今、思うのです。どうしてあんなに簡単にやめたのか・・・私は精神科医になりたかったのではないかと。

だから発病してあきらめたのではないかと。

医学部をやめてよかった

私は、簡単に夢をあきらめました。でも、あきらめてよかった。何故なら、私は精神病患者になって、世の中の毒をたくさん見ました。身近なひとに差別され、ズタズタになり、ますます心病んで、私はそれを打破するべく、哲学者になれました。

それが、私が人生と戦う唯一の方法だったのです。

もし、精神病患者にならず、心を治すドクターになれていたらとも思います。でも、私は、自分の限界を知ってしまっています。

私は、自分としか向き合えない、自分と向き合う定めの人間だった。患者さんを助けられる器ではなかった。だから、神様は、私の強い意志をくじくために、あえて精神病患者にしたのではないかと思うのです。

自分と向き合う楽しい日々

私は素晴らしい精神科医の先生と出会い、病気を安定させていただき、現在哲学を勉強しています。この生き方は、大きな代償と引き換えに得た分だけ、とても価値あるもので、私の宝物です。

パパも、天国で、医師になれなかった、でも立派に自分の生き方を見つけている私を喜んでくれているはずです。